

PROGRAM  
プログラム

音楽の都 ウィーン  
「大作曲家の森」へようこそ!

指揮・お話：角 岳史  
チター独奏：櫻 隆彰  
演奏：千代田フィルハーモニー管弦楽団

**PART 1**  
ヨハン・シュトラウス二世 / 喜歌劇「こうもり」序曲  
アントン・カラス / 映画「第三の男」のテーマ ほか…チター独奏  
ヨハン・シュトラウス二世 / ワルツ「ウィーンの森の物語」  
ブラームス / ハンガリー舞曲第1番

休憩 (15分)

**PART 2**  
1分間指揮者コーナー  
ベートーヴェン / トルコ行進曲～劇音楽「アテネの廃墟」より

**PART 3**  
モーツァルト / 歌劇「フィガロの結婚」序曲  
シューベルト / 劇音楽「キプロスの女王ロザムンデ」から 間奏曲  
リヒャルト・シュトラウス / 「バラの騎士」組曲から  
序奏～銀のバラの賦、オックス男爵のワルツ、三重唱

PROGRAM NOTE  
演奏曲の紹介

**PART 1**  
ヨハン・シュトラウス二世  
喜歌劇「こうもり」序曲  
「大作曲家の森」のオープニングはシュトラウス二世 (1825～1899年)の名曲から！開演したシャンパン・コルクが吹っ飛ばすような冒頭、ワクワク感がよく、華やかさと艶やかさが織りなすワルツ。はたまた恋人への泣きのフレーズなどなど、劇中の多彩な旋律が次々と繰り出される魅惑的な序曲です。ウィーンが舞台の人気ナンバーワン・オペレッタですが、タイトルが何故「こうもり」なのかは、指揮者～角さんのお話で明らかになります。

アントン・カラス  
映画「第三の男」のテーマ ほか  
チター独奏  
ヨハン・シュトラウス二世  
ワルツ「ウィーンの森の物語」

「ワルツ王」とも呼ばれるシュトラウス二世はワルツ「ウィーンの森の物語」で「チター」という民族楽器を独奏に用いました。オーストリア～南ドイツ地域以外では極めてマイナーな楽器なので、ワイオリン独奏に代えて演奏されることほとんどですが、本日は本来の「チター」独奏で演奏します。ビールCMで耳馴染みのアントン・カラス (1906～1985)による映画テーマ音楽など、「チター」の名曲の幾つかを併せてお聴きいただけます。(楽器・独奏紹介をご覧ください)

**ZITHER**  
チター (ツィター)  
アルプス地方を代表する民族楽器。利上げで弾く撥弦楽器で、5本のフレット付メロディ弦と30数本の伴奏弦があります。調弦法でミュンヘン式とウィーン式があり、映画「第三の男」の作曲・演奏で有名なアントン・カラスはウィーン式を愛用していました。本日のチターはミュンヘン式ですが、伴奏弦はウィーン式に変えています。  
【チター独奏】 櫻 隆彰：東京都出身、中学時代からヨーデルを愛好。レコードで耳にしたチターの音色・響きに魅せられ、23才から演奏を始め、チターをM・アントン・カラスの各所に演奏。現在、主要な建築設計・監理の傍ら、チターアンサンブル「アルペンローズ」を結成、教育施設等を中心に演奏活動を行っている。NHK-FM、テレビ朝日「タモリ倶楽部」などの放送に出演。

ブラームス  
ハンガリー舞曲第1番  
前半最後の作曲家はウィーン音楽界の重鎮ブラームス (1833～1897年)。意外にも (?!?) シュトラウス二世とは同世代で気の合う仲だったようです。ハンガリー舞曲集 (21曲) は、ピアニストでもあった若き日のブラームスが、伴奏者として各地巡業中に採譜した舞曲をピアノ譜として編纂、大好評となったものです。全て管弦楽用に編曲されたのですが、作曲家自身の手によるのは3曲だけ。その中から今日は第1番を演奏します。陰影のくっきりとした旋律調がシュトラウス二世と対称的な「粋」を感じさせます。

**PART 2**  
1分間指揮者コーナー  
ベートーヴェン  
劇音楽「アテネの廃墟」から  
「トルコ行進曲」

17世紀、オスマン・トルコによってウィーンは包囲されました。危機を脱したウィーンではいるいるな「トルコ趣味」が流行！クロワッサン、コーヒー・ファッション、そして音楽にもトルコ音楽の強烈なイメージが反映された曲が幾つも残されました。今日はベートーヴェン (1770～1827) が作曲した「トルコ行進曲」を1分間指揮者コーナーで振っていただきます。

**PART 3**  
モーツァルト  
歌劇「フィガロの結婚」序曲

「フィガロの結婚」はモーツァルト (1756～1791) がウィーンに来て5年、後の絶頂期とも思われる30歳の時の作品です。名声が定着したこの頃、16歳のベートーヴェンがモーツァルトを訪ねて対面した、とも伝えられています。この序曲はモーツァルトのオペラ序曲のなかでも、飛び抜けて明るく軽快、なおかつ流麗で、現代でもひととき人気の高いものです。

シューベルト  
劇音楽「キプロスの女王ロザムンデ」から 間奏曲

シューベルト (1797～1828) は、ウィーンで生まれウィーンで亡くなった数少ない作曲家です。31歳の若さで亡くなるまでに1000曲にも上る膨大な作品を残しています。今こそ大作曲家ですが、当時は演奏機会に恵まれず、友人達によるサロンコンサート「シューベルト・アデー」の場がほとんど。この劇音楽も僅か2回の公演で打ち切られています。心を和ませる優しく柔らかな旋律が印象的な「間奏曲」は、あの「未完成交響曲」と同時期に作曲され、後の管弦楽作品の中でも名高いもののひとつです。

リヒャルト・シュトラウス  
「バラの騎士」組曲から  
序奏～銀のバラの賦、  
オックス男爵のワルツ、三重唱

20世紀の交響詩、オペラ、歌曲の作曲家、そして指揮者でもあるリヒャルト・シュトラウス (1864～1949) はウィーン国立歌劇場でも活躍しました。「モーツァルト風オペラ」を目指して作られた歌劇「バラの騎士」の名曲を管弦楽に編曲した組曲から、最も有名な3つの部分を続けて演奏します。「バラの騎士」とは婚約の印として銀のバラの花を贈る使者のこと、ウィーン貴族達の恋物語の情景が今日の演奏でお届けできれば幸いです。



【指揮】角 岳史

島根県に生まれる。東京学芸大学芸術課程音楽科卒業。指揮と作曲を学ぶ。1995年よりウィーンに留学し研鑽を積む。  
1996年より (財) 日本オペレッタ協会の全ての公演に参加し、指揮者または合唱指揮者として、「こうもり」「メリー・ウィドウ」をはじめとする数多くのオペレッタに携わる。オペラでも、これまで各地の団体にモーツァルトの「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」、ヴェルディの「精進」「リゴレット」、プッチーニの「ボエーム」、ビゼーの「カルメン」、フンパーディンクの「ヘンゼルとグレーテル」などを指揮。1998～1999年シーズンには劇団四季のロングラン公演「オペラ座の怪人」でミュージカル指揮者としても活動。またオーケストラや合唱の指揮者、指導者としても各方面で活躍している。  
現在、東京オペレッタ劇場音楽監督。近年では、コンサートやオペレッタの舞台のプロデュース、構成演出なども手がけている。  
指揮を并崎正浩、湯浅勇二、松尾葉子、ヴァラディ・カタリツ、ルドルフ・ピーブルの各氏に、作曲を故青木祐二、吉崎清富の各氏に師事。

2011年 7月9日(土)  
午後 1:30 開場 / 午後 2:00 開演  
紀尾井ホール

サマーコンサート

SUMMER CONCERT

入場無料  
入場口で整理券をお受けください

指揮・お話：角 岳史  
千代田フィルハーモニー管弦楽団

PART 1

J.シュトラウス二世 / 序曲～喜歌劇「こうもり」より  
アントン・カラス / 第三の男から テーマ  
J.シュトラウス二世 / ワルツ「ウィーンの森の物語」  
ブラームス / ハンガリア舞曲第1番

PART 2 1分間指揮者コーナー

ベートーヴェン /  
トルコ行進曲～劇音楽「アテネの廃墟」より

PART 3

モーツァルト / 序曲～歌劇「フィガロの結婚」より  
シューベルト / 間奏曲～劇音楽「キプロスの女王ロザムンデ」より  
R.シュトラウス / 序奏、ワルツ、三重唱～「薔薇の騎士」組曲より  
J.シュトラウス一世 / ラデツキー行進曲

主催：千代田区 / 千代田フィルハーモニー管弦楽団  
後援：「社会を明るくする運動」千代田区推進委員会

音楽の都 ウィーン  
「大作曲家の森」へようこそ!

7月は「社会を明るくする運動」の強調月間です。

法務省主催「第61回社会を明るくする運動」参加

小さな  
お子さまも  
いっしょに  
ご家族で

サマーコンサート

SUMMER CONCERT

指揮・お話：角 岳史  
千代田フィルハーモニー管弦楽団

2011年 7月9日(土) 午後 2:00 開演  
紀尾井ホール

サマーコンサート入場券

